

自閉症スペクトラム児の保護者のエンパワメント研究

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
小島 拓

長年にわたり、エンパワメントという概念は福祉分野の中で興味深いトピックであった。しかし、エンパワメントの研究では、障害をもつ当事者か、健常者の母親を対象としているものが多い。

本研究では、ASD児療育グループZくらぶに所属しているASD児の親(N=3)を対象とし、麻原(2000)の「個人エンパワメント」の構造や支援のための視点をもとに調査し、エンパワメントの状態とそれに影響もしくは支えとなった要素を明らかにすることで、ASD児に対する育児支援への提言につなげることを目的とした。また調査では、半構造化インタビューを実施し、その結果をKJ法を用いて分析した。

その結果、3事例ともに共通したエンパワメントがなされた状態として、子どもの育児の中での積極的な情報収集を行っており、子どもの障害が発覚した後、講習会やインターネット、職場での伝聞、専門家との直接の面談等、様々な手段を通して情報を収集することで、子どもの育児の方向性を決めようとしている姿が見られた。

結果より、ASD児の親のエンパワメント支援として、今回の事例からも、子どもの障害に関連した情報収集を積極的にしている姿が多く見られ、療育グループ、教室において、ASD育児やそのサポートに関係する情報が集まる場所、情報を集める上で適切な手段の使い方を具体的に教え、情報収集がよりしやすい環境を整えることで必要であると考えられた。